

柏尾の風



横浜市立柏尾小学校

学校便り

6月号

令和8年5月15日

手をつなぐ

副校長 海邊 浩明

今春、柏尾小学校に副校長として着任しました海邊 浩明（かいべ ひろあき）と申します。本校の教育活動の推進に尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

今後は、「学校の見える化」の実現に向けて、学校と家庭をつなぐ連絡ツール「すぐーる」や学校ホームページを効果的に活用し、学校と家庭・地域との距離が少しでも近くなるよう取り組んでまいります。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和8年度がスタートして1か月が経ちました。子どもたちは、新しい担任や学級の仲間と共に、新鮮な気持ちで楽しく学校生活を送っています。

また、毎日の登下校では、児童を温かく見守ってくださる本校の学援隊の活動がとても充実していることに、大変驚きました。地域・保護者の皆様による学校への手厚い支援を、心よりありがたく感じております。おかげで、児童は安心して学校までの道のりを歩くことができます。

さて、私事ですが、我が家には高校3年生になる息子がいます。ついこの前まで、保育園や児童の送り迎えをしていたように思っていたのですが、今では自ら電車を乗り継いで高校に通っています。その姿を見て、我が子の成長の早さに改めて驚かされます。

息子が幼い頃は、さまざまな経験をさせたいと、各地へ旅行に連れていきました。しかし残念ながら、息子本人はほとんど覚えておらず、愕然としたことがあります。写真を見せながら説明しても、「そんなことあったっけ？」と首をかしげるばかりでした。

そんな息子にも、はっきり覚えていることが一つありました。それは、「お父さんと手をつないで歩いたこと」です。どこで何をしたかは覚えていなくても、父と手をつないで歩いた記憶だけは残っているようでした。

保育園児だったある日、息子と二人で出かけ、細い道から車の多い大きな道に差しかけたときのことです。息子は私を見上げ、「ここは危ないから、手をつなごっか」と手を差し出しました。年齢に似合わない言い回しに、思わず笑ってしまったことを、今でもよく覚えています。大切な思い出の一つです。

最近、街を歩いていると、スマートフォンを操作しながら歩く大人の後ろを、子どもが少し寂しそうに追いかけている姿を目にすることがあります。子どもと手をつないで歩ける時期は、本当に短いものです。安全のためだけでなく、「今だからこそできるスキンシップ」を、心に留めていただければと思います。

「光陰矢の如し」と言いますが、子どもの成長や変化は驚くほど早いものです。今、このときにしかできないお子さんとの関わりを、大切な時間として過ごしていただければ幸いです。

学校でも、子どもたちが安心して人と関わり、心のつながりを感じられる場となるよう、教育活動を進めてまいります。